

## 患者さんへ

### 「救命救急センターに入院した急性期総合診療科の患者さんにおける リフィーディング症候群リスク評価の現状」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。

1 研究の対象	2025 年 5 月 1 日～31 日の期間に当院の救命救急センターに入院した急性期総合診療科の患者さん(小児・妊婦の方は除きます)
2 研究目的・方法	<p>重症入院患者さんに対する早期栄養介入の重要性は広く認識されていますが、リフィーディング症候群(RFS)※は命に関わる問題が起こることがあるため、入院初期のリスク評価が極めて重要です。しかし、全入院患者さんに対して管理栄養士が即時に介入し評価を行うことは困難であるのが現状です。</p> <p>そこで本研究では、当院救命救急センターに入院した急性期総合診療科の患者さんの RFS リスク評価を診療録の情報から評価し、具体的な食事内容や管理栄養士の介入状況を調査します。</p> <p>※RFS とは、慢性的な栄養不良状態が続き高度の低栄養状態にある患者さんに急激な十分量の栄養補給を行うことにより発生する各種の症状のことです。</p> <p>研究の期間:施設院長許可後(2025 年 11 月)～2026 年 12 月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、体重、BMI(ボディマス指数)、過去 3～6 か月以内の意図しない体重減少率(3～6 か月前体重と入院時の体重で比較)、絶食期間、飲酒歴、入院時の診断名、既往歴、血液検査値、薬剤情報、入退院の日時、経口もしくは経管栄養開始の日時、入院中の食事内容、在院日数 等
5 個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータかわからないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
6 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

	<p>研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:</p> <p>湘南鎌倉総合病院・栄養管理部 伊藤典子</p> <p>住所: 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 連絡先: 0467-46-1717</p>
--	--

2025 年 12 月 5 日作成(第 1.1 版)